

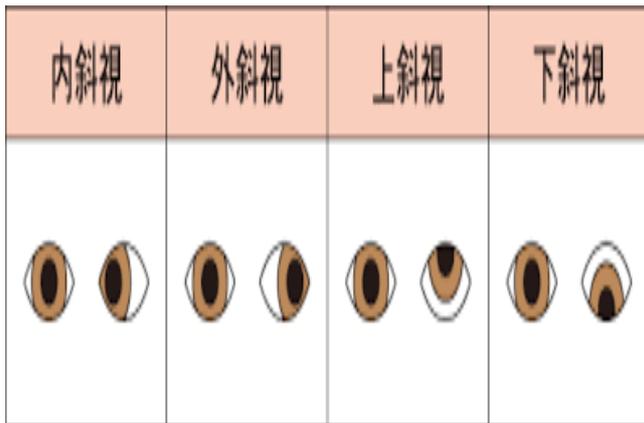
ほけんだより 10月

みそらこども園
令和2年10月16日(金)



10月10日は目の愛護デーでもあり、今月はこどもの斜視について考えていきましょう。こどもの視力は成長します。生まれたばかりの赤ちゃんは、明暗ぐらしかわかりません。しかし1か月くらいで物の形が、2か月くらいで色がわかるようになります。4か月になると、動くものを追って目を動かせるようになります。6歳くらいには大人と同じ視力を持つようになります。こどもの視力が発達するには、毎日物を見ている必要があります。目から受けた刺激を、脳が正しく理解するのに、訓練が必要です。訓練とは特別な事をするわけではなく、目を開けて色々な物を見、目からの刺激を脳が正しく理解するようになります。視力が成長する大切な時期、スマホやゲームの刺激ではなく、自然に触れ、自然の色彩をたくさん見て、視力にも脳にも良い刺激を与えましょう。

斜視とは? 物を見る時には、右目も左目も両方の目が、見ようとする物の方向に向いています。ところが、片方の目が目標と違う方向に向く場合があります。これを斜視といいます。斜視はこどもの2%くらいにみられる病気です。



左目が内を向いている 左目が外を向いている 左目が上を向いている 左目が下を向いている

右目を正常な位置とした斜視の種類

どうして斜視になるの?

- ・目の筋肉や神経などの異常
- ・遠視
- ・視力不良
- ・両眼視の異常



両眼視とは?

2つの目で見た物を脳で1つにまとめる働きのことです。両眼視ができないと、物が2重に見えたりするばかりではなく、立体感を感じることもできません。両眼視は生後1年くらいでできるようになり、6歳くらいには完成します。

斜視はどうやって調べるの?

両目の向きが異なる為に家族の方が見ても気づきます。早期に治療しないと、弱視や物が2重に見える複視の原因になります。

偽斜視・・・赤ちゃんは、鼻が低くて、その根元が十分に発達していない為に、両方の目の間が広くなっており、白目の内側がみえない場合があります。内斜視のように見えますが、斜視ではありません。これを偽斜視といいます。偽斜視は鼻の根元が成長していくにつれ、正常に見えるようになります。



みそらこども園感染症情

9月1日から9月30日まで

突発性発疹 2名

流行性角結膜炎 1名

インフルエンザの予防接種が始まりました。2回接種したからと罹らないというわけではありませんが、罹った時の症状が軽く脳症

などの合併症を防いでくれます。

家族みんなで受ける事で、インフルエンザの感染拡大を防ぎましょう。今年も、小学6年生まで、1回につき1000円ずつ補助があります。